

# 視 察 報 告 書

報告者氏名：西郷宗範

委員会名：生活環境常任委員会

期 間：平成 29 年 10 月 18 日(水)～平成 29 年 10 月 20 日(金)

視察都市等：東京都町田市  
香川県高松市  
静岡県浜松市

視察項目：

町田市「消えないまちだ君整備促進事業」

高松市「地域コミュニティ協議会及び地域まちづくり交付金事業について」

浜松市「水道施設のダウンサイジング及びコンセッション方式による下水道事業について」

所 感 等：

町田市「消えないまちだ君整備促進事業」

町田市は東京都中部の最南部に位置し、人口 43 万人の商業都市である。神奈川県横浜市、川崎市、相模原市の政令指定都市に隣接することから、神奈川県域との交流も多い。人口減少対策が全国的な課題となっている中で、現在の人口を維持するためにも様々な事業を行っており、「消えないまちだ君整備促進事業」もこれまでの行政の考え方を覆すような事業となっている。

消えないまちだ君は、東日本大震災の際、停電のため街路灯が全て消え、夜間の帰宅困難者等の活動に支障をきたしたことから、電気の供給が止まっても点灯し続ける街路灯を開発した。開発に当たっては、町田市と市内の企業集団「多摩高度化事業協同組合（まちだテクノパーク）」が共同で開発している。さらには、2013 年には町田市とまちだテクノパークの連名により特許を出願・取得している。消えないまちだ君は商標登録も取得している。

消えないまちだ君は従来の停電時点灯街路灯（ソーラー街路灯）とは違い、既存街路灯柱内にバッテリーユニットを設置するというもので、設備を新たなものに更新する必要もなく比較的安価で設置ができる。

現在、市内の道路に 145 基設置されており、市内公共施設や公園等合わせて 201 基が設置されている。そのほか、東北の復興支援としての設置や、近隣自治体などにも採用されており、さらには 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック及び水銀灯問題に向け、大型道路照明を共同開発している。他自治体への販売に向けた営業は、職員及び議員が協力して取り組んでおり、2 年前には町田市議会議員の紹介で本市へも営業に来られている。当時は消えないまちだ君のほか、まだ開発されたばかりの冠水警報表示システム「冠水ガード君」も併せて紹介されており、今回も冠水ガード君について説明された。

冠水ガード君はゲリラ豪雨等で高架下がたびたび冠水することで通行に支障をきたしていることから、冠水時にドライバーへ警報表示を行うシステムである。これについてもワイヤレスで送受信をすることから、制御盤等の新たな設置や道路等への追加設備の設置が不要であるため、類似する既存製品の 5 分の 1 ほどの価格で設置できる。免許・届け出が不要な帯域の無線を使用しており、設置についても特別な許可は不要である。道路交通法の関係から通行止めの判断は警察によるため、自動でも切り替えができるが、手動で行うこととしている。現在、本市には冠水ガード君を必要とするアンダーパスなどはないものの、近年の気象を見ると、アンダーパス以外の設置なども今後検討していく必要があると思われる。

さらに、今回は開発されたばかりの町田市災害時・観光通信 Wi-Fi 「Wi-Fi 街だ君」についても説明を受けた。

Wi-Fi 街だ君は消えないまちだ君をベースとしており、街路灯に Wi-Fi 機能を搭載し、災害時に起きる通信障害の緩和を図っている。付帯設備として Wi-Fi、カメラ、サイネージ、防災スピーカー等の取り付けが可能となっており、今後期待できる設備となっている。屋外広告条例などの課題はあるものの、現在、保守価格や通信価格などの維持管理費の総額圧縮に向けて開発を進めている。

私としては消えないまちだ君及び冠水ガード君については、2 度目の説明であるが、町田市のこの事業に対する考え方は見習うべきところがある。今回の視察を前に、前回説明を受けた市民安全部に検討の状況を確認したところ、部内での意思統一も図られておらず、残念な結果であった。製品の進化もさることながら、職員と議員が一体となって営業し、

市の利益を獲得していく姿勢は見習うべきところであり、今回の視察を通じて改めて本市にも利益追求の事業の発案があるべきであると考えた。



## 高松市

### 「地域コミュニティ協議会及び地域まちづくり交付金事業について」

高松市は香川県の中央部に位置し、県庁所在地として42万人の人口を有しているが、さらに高松市を中心とする高松都市圏として四国最大の雇用都市圏を有している。

そのような高松市ではあるが、人口減少時代における人口推移は右下がりが続いており、高齢化に伴う生産年齢人口の減少も著しい。併せて自治会加入率も昭和55年から市町合併時を除く現在まで減少を続けており、今年度は59%と6割を下回った。平成22年には自治基本条例を施行し地域コミュニティ協議会を設置し、多様な主体が地域社会を支える新しい仕組みづくりを構築している。地域コミュニティ協議会は、本市でいう地域運営協議会であるが、主に小学校区が基準となっており、44地区の学校区がその役割を担っている。より多くの住民が自治会に加

入し、自治活動を活発に行うことで様々な活動が活性化している。本市と異なるところは高松市には52館のコミュニティセンターがあり、コミュニティ活動の拠点になっている。また、入庁2年目の職員に居住区域の地域コミュニティ協議会の担当として実習研修を行っているが、今年度からは課長・次長級職員を派遣することとした。さらに、運営・活動財源として、地域まちづくり交付金、地域コミュニティ協議会事務局体制強化支援事業補助金など地域コミュニティの活動を支援する財源が確保されている。特に地域まちづくり交付金は、本市であれば連合町内会に交付されるものをすべて一元化し、地域コミュニティ協議会に一括交付されることで、町内会だけでは人材が不足するようなものを地域コミュニティ協議会が行うことにより対応できているように感じられる。

本市においては地域運営協議会設置の際にも屋上屋ではないかという意見が多々見られたが、高松市ではあくまでも連合町内会と地域コミュニティ協議会は並列の立場で、異なるとの説明であった。本市において、この制度の導入はなかなか難しいと考えられるが、交付金や補助金の名称を変えることにより、新たな発想の変化が生まれるような気もする。今回の視察結果も踏まえ、まだ設置されていない地区の地域運営協議会の事業なども考えつつ、既存の協議会についても発展性のある考え方をしてみたい。



## 浜松市

### 「水道施設のダウンサイジング及びコンセッション方式による下水道事業について」

浜松市は静岡県西部に位置し、平成の大合併により79万人の人口と全国2番目に広い市域を得て、政令指定都市となった。旧市域は城下町

や宿場町として栄え、浜名湖を抱えることから商業の街としても栄えてきた。合併した多くは森林域などを抱えることから、広大な市域に比べ、住宅地や商業地は旧市域が中心となっている。

浜松市では水道施設の耐震化が重要視される中、平成 21 年に管路耐震化事業計画を策定し、平成 23 年度から耐震化事業に着手している。すでに市内の期間管路 236 kmのうち 117 kmを耐震化しており、平成 36 年度までの 14 年間で残りの 119 kmを全て耐震管路にし、耐震適合率 100%を目指している。

耐震化には接手補強工法を導入し、老朽化が進行していない管路については、既設管路を布設替えせず、継手部分を耐震補強する方法をとっている。この結果、将来の水需要も踏まえ、対象管路の全部または一部を口径ダウンすることが可能となり、300 億円の縮減をすることが可能となっている。今後は口径の大きい補強金具の開発なども検討している。

続いて、コンセッション方式であるが、西遠流域下水道が平成 28 年に静岡県から浜松市に移管されることとなった。具体的には、幹線管路は県の維持管理を継続するものの、幹線に比べて短い枝管については市が行うこととなった。これまで県が行ってきた事業を市が行うにあたり、事業の効率化を図るため、県が直営で行っていた費用と比較検討し、市長の施政方針から「民間でできることは民間で」を基本に公共施設の整備や維持管理への民間活力の導入を進めるため、コンセッション方式での運営を決定した。市職員の増員を抑制し、コスト削減を図っている。事業スキームとしては、使用者が浜松市への使用料と運営管理者への使用料を支払う形ではあるが、運営管理者は浜松市へ利用料金の収受委託を行っている。この際、自治法上、人のお金を預かれないという問題点が発生したが、PFI 法施行令の改定をしてもらうことで浜松市が利用料金を収受できることとなった。また、運営権者から浜松市には運営権対価として 25 億円が支払われる。視察日直前の 10 月 16 日に運営権設定の議決がされ、直後の 10 月 30 日に実施契約の締結が予定されていた。本事業は平成 30 年 4 月 1 日開始を予定している。

運営を委託する場合、大企業が運営権者となるケースが多く、地元企業からの抵抗が懸念されるが、元々県の直営だったこともあり地元企業が参入していなかったため、抵抗はなかったという。

本市においては、現在のところコンセッション方式を導入するような事案はないが、市のメリットとなる事業に対し、法の規制が課題となる場合には、法の改定を検討することも必要であることが分かった。これまであきらめていたようなものも、法を改定することで可能となること

もあるであろう。

